

(5) 2014年(平成26年)11月17日(月曜日)

物流Weekly

# 取得データで効果的運用

## 京葉ロジコ クラウド型デジタル導入

危険物を含む化学・石油製品の輸送をメインに、廃棄物の収集運搬や学校給食の配送まで幅広く展開する京葉ロジコ(鶴野正勝社長、千葉県茂原市)では、富士通製クラウド型デジタルのドラレコ搭載モデル「DTS-1-CO-D」と、運行支援・動態把握サービス「ITP-Web Service」を導入している。山本力二常務と鶴野隆平営業部長に話を聞いた。

使い勝手は非常に良いが、取得データをさらに有効活用するなどの効果的な運用に、これからは取り組みたい」と語る。

主からの到着時間の問い合わせに対し、ドライバーに電話確認しなくてもGPSの情報をもとに即座に回答できることは顧客満足の高点からも大きい。積み込み時間の指不も的確にできる」と付け加える。

また、「大雨、大雪、加齢など、非荷時には電話がつかない時もある。そういったケースにも役立つ」とし、導入以降すでに「助かった」事例が何件かあるという。クラウド機能も積極的に活用しており、「ヒヤリハットの映像は速急にクラウドドライバー教育に活用している。瞬間を捉えられるのが良い」と付け加える。

安全への取り組みに力を入れている同社。車載器の入れ換えに際し、作業日報の自動出力だけでなく、クラウド型でドライバーごとの運転・位置情報などの様々なデータをリアルタイムで取得することができると製品を採用した。鶴野部長は、「従来品では取得できなかったデータも取れるなど



# 拠点間でヒヤリハット共有

同社がデジタルを導入したのは今から10年ほど前。時は省エネ運転ブームで、同社も「燃費削減が大きな目的だった。実際に狙っていた効果は出ているというが、新たに導入した車載器には、「省エネはもちろんで、安全面にも大きく期待している」という。昨

年8月までは同4・14日と回転数をリアルタイムで把握できるため、管理者側には警告の通知が来たら、その場でドライバーにテキスト送信機能で伝え、帰って来たら指導している。

同常務は、「ドライバー同士が点数を競い合うなど、一人ひとりの意識が変わってきている」とし、「それぞれが自ら積極的に取り組めば事故は減るし、省エネにも結びつく。『安全に力を入れてくれる会社』として、ドライバー志望の方が安心して入社できるようなしていきたい」と語る。

(大西友彦)



山本常務(右)と鶴野部長